

沼津原宿(東海道五十三次)

原・浮島ぐるりMAP

新東名高速・駿河湾沼津サービスエリア
スマートインターからも楽々アクセス!



11 鎌倉古道
昔、浮島には都につながる鎌倉古道がありました。浮島沼の地形に合わせて曲がっていたまますま作られたが、交通の要衝として多くの旅人に利用されたといえます。現在では長年の整備によって一部を除き消滅してしまいました。

23 駒止の椽
源頼朝が馬を休ませるために使用した椽の木が移植され、浮島中学校に現存します。

24 浮世絵にもなった浮島ヶ原
浮島沼(富士沼)は富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

26 すいどっかどと湧池
魚が棲みやすい川を作ってほしいと浮きウキ子供クラブが浮島地区環境保全推進会に提案し、「すいどっか」という農業用水路を改修してもらいました。川にほび、いわゆる湧池を作って、魚のすみかを作りました。

27 ツバメのねぐら
浮島には季節になるとツバメが群を飛来します。女鹿塚に現存する大きな葦原に巣を作り、7月後半から8月にツバメのねぐらが見られます。

13 富士山ビューポイント
浮島には富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

10 東海道中膝栗毛
江戸時代の旅物語、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のなかに東海道の宿「沼津原宿」の名物として「うなぎの蒲焼き」が登場します。弥次さん・喜多さんはその匂いを嗅ぎながら「蒲焼きのにおいさかぐも、うなぎとま、こちら二人は、うなぎの蒲焼き」と言って、「うなぎ」と「難儀」をかけて、我慢して通り過ぎていきます。

23 大通寺
江戸時代初期の頃、新田開発に遠征より来村した開拓の衆のために、総外興隆和尚を開山に招聘しました。幕末には徳川の藩士が寺子屋を開き、明治6年「初学舎」と名づけられました。

14 浮島沼
海が山や川からの砂の堆積によって塞がれたために出来た沼。昔、明治初期には「富士八湖」のひとつとして名を連ねたほど。ここに生息する特有の動物植物も多く、その保全が地域の大きな課題です。

25 雄(男)鹿塚・雌(女)鹿塚伝説
浮島には昔、仲のいい夫婦の鹿が棲んでいたそうです。あるとき、烈風のため島が二つに割れて東西に吹き流され、二頭は別々に暮らすようになってしまいました。別れ別れとなって死んでしまったという悲しい物語が残っています。夫婦の鹿に因んで東の塚を雄鹿塚、西の塚を雌鹿塚と呼ぶそうです。

4 大泉寺
源氏ゆかりの寺。源氏一門・阿野全成(頼朝の異母弟・義経の兄)の館跡に建ちます。全成が首を切られたあと、供養のために持ち帰った首を、北条氏が占領する中に入らず、首を入口にあつた松にくくりつけたため「首掛け松」と呼ばれています。

5 大泉寺・伝阿野全成・時元の墓
兵を挙げると敗れ自刃した阿野全成・時元親子の墓があります。お墓は沼津市の指定史跡。

16 昌原寺 七面さん
日蓮宗。開基は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

15 徳源寺 子安さん
徳源寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

6 伝河毛重次の墓
興国寺城主。豊臣秀吉の武将・中村一氏の家臣。興国山「本法寺」を開基。惣左衛門重次使用の鎧と馬の鞍が寺宝となっています。

7 興国寺城跡
小田原北条(後北条)五代の墓を築く城。興国寺城本丸北側(伝天守台下)には穂見神社が建ち、その右には初代城主「北条早雲の陣と最後の城主である天野三郎兵衛康景の碑」があります。

8 穂見神社
穂見神社は江戸時代・安政年間の大震災の被害にあい、1857年に五穀豊穡の御利益がある農家神「高尾山穂見神社」を山梨の高尾山穂見神社から分祠し建立されたものです。東照堂の穂見神社は1846年に山梨の高尾山穂見神社から分祠されたものです。

22 白隠のみち
松蔭寺門前の通りや白隠禅師産湯の井戸などをめぐる白隠のみち。周辺にある数々の名刹や名園「帯美園」など貴重な歴史遺産を結んだ風情ある道です。

18 西念寺 天神さん
西念寺(時宗)。境内に学問の神様をお祀りした天満宮があります。門前に白隠さんの生家があり、幼少の頃よりお母さんといっしょにこの天満宮に日々参拝に訪れました。天満宮大祭は毎年5月。

19 松蔭寺 白隠さん
松蔭寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

9 妙泉寺・増田平四郎の墓
昔から多くの水害に見舞われていた浮島地区。その災害をなくすために尽力した増田平四郎は1836年に浮島沼の水を海に排除する計画を立て、苦勞の末、慶応2年の春には九割がた完成しましたが8月の高波で掘削が崩れ、平四郎は完成を見ずに亡くなりました。のちに昭和第一放水路となりました。

12 浮島湧水群
富士山や愛鷹山の伏流水が至る所で湧き出す浮島沼。多くの湧水は今でも地域住民の生活を支えています。

17 帯美園
帯美園は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

20 長興寺 金比羅さん
長興寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

21 清梵寺 お地藏さん
清梵寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

19 松蔭寺 白隠さん
松蔭寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

11 鎌倉古道
昔、浮島には都につながる鎌倉古道がありました。浮島沼の地形に合わせて曲がっていたまますま作られたが、交通の要衝として多くの旅人に利用されたといえます。現在では長年の整備によって一部を除き消滅してしまいました。

23 駒止の椽
源頼朝が馬を休ませるために使用した椽の木が移植され、浮島中学校に現存します。

24 浮世絵にもなった浮島ヶ原
浮島沼(富士沼)は富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

26 すいどっかどと湧池
魚が棲みやすい川を作ってほしいと浮きウキ子供クラブが浮島地区環境保全推進会に提案し、「すいどっか」という農業用水路を改修してもらいました。川にほび、いわゆる湧池を作って、魚のすみかを作りました。

13 富士山ビューポイント
浮島には富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

10 東海道中膝栗毛
江戸時代の旅物語、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のなかに東海道の宿「沼津原宿」の名物として「うなぎの蒲焼き」が登場します。弥次さん・喜多さんはその匂いを嗅ぎながら「蒲焼きのにおいさかぐも、うなぎとま、こちら二人は、うなぎの蒲焼き」と言って、「うなぎ」と「難儀」をかけて、我慢して通り過ぎていきます。

14 浮島沼
海が山や川からの砂の堆積によって塞がれたために出来た沼。昔、明治初期には「富士八湖」のひとつとして名を連ねたほど。ここに生息する特有の動物植物も多く、その保全が地域の大きな課題です。

25 雄(男)鹿塚・雌(女)鹿塚伝説
浮島には昔、仲のいい夫婦の鹿が棲んでいたそうです。あるとき、烈風のため島が二つに割れて東西に吹き流され、二頭は別々に暮らすようになってしまいました。別れ別れとなって死んでしまったという悲しい物語が残っています。夫婦の鹿に因んで東の塚を雄鹿塚、西の塚を雌鹿塚と呼ぶそうです。

4 大泉寺
源氏ゆかりの寺。源氏一門・阿野全成(頼朝の異母弟・義経の兄)の館跡に建ちます。全成が首を切られたあと、供養のために持ち帰った首を、北条氏が占領する中に入らず、首を入口にあつた松にくくりつけたため「首掛け松」と呼ばれています。

5 大泉寺・伝阿野全成・時元の墓
兵を挙げると敗れ自刃した阿野全成・時元親子の墓があります。お墓は沼津市の指定史跡。

16 昌原寺 七面さん
日蓮宗。開基は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

15 徳源寺 子安さん
徳源寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

6 伝河毛重次の墓
興国寺城主。豊臣秀吉の武将・中村一氏の家臣。興国山「本法寺」を開基。惣左衛門重次使用の鎧と馬の鞍が寺宝となっています。

7 興国寺城跡
小田原北条(後北条)五代の墓を築く城。興国寺城本丸北側(伝天守台下)には穂見神社が建ち、その右には初代城主「北条早雲の陣と最後の城主である天野三郎兵衛康景の碑」があります。

8 穂見神社
穂見神社は江戸時代・安政年間の大震災の被害にあい、1857年に五穀豊穡の御利益がある農家神「高尾山穂見神社」を山梨の高尾山穂見神社から分祠し建立されたものです。東照堂の穂見神社は1846年に山梨の高尾山穂見神社から分祠されたものです。

22 白隠のみち
松蔭寺門前の通りや白隠禅師産湯の井戸などをめぐる白隠のみち。周辺にある数々の名刹や名園「帯美園」など貴重な歴史遺産を結んだ風情ある道です。

18 西念寺 天神さん
西念寺(時宗)。境内に学問の神様をお祀りした天満宮があります。門前に白隠さんの生家があり、幼少の頃よりお母さんといっしょにこの天満宮に日々参拝に訪れました。天満宮大祭は毎年5月。

19 松蔭寺 白隠さん
松蔭寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

9 妙泉寺・増田平四郎の墓
昔から多くの水害に見舞われていた浮島地区。その災害をなくすために尽力した増田平四郎は1836年に浮島沼の水を海に排除する計画を立て、苦勞の末、慶応2年の春には九割がた完成しましたが8月の高波で掘削が崩れ、平四郎は完成を見ずに亡くなりました。のちに昭和第一放水路となりました。

12 浮島湧水群
富士山や愛鷹山の伏流水が至る所で湧き出す浮島沼。多くの湧水は今でも地域住民の生活を支えています。

17 帯美園
帯美園は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

20 長興寺 金比羅さん
長興寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

21 清梵寺 お地藏さん
清梵寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

19 松蔭寺 白隠さん
松蔭寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

11 鎌倉古道
昔、浮島には都につながる鎌倉古道がありました。浮島沼の地形に合わせて曲がっていたまますま作られたが、交通の要衝として多くの旅人に利用されたといえます。現在では長年の整備によって一部を除き消滅してしまいました。

23 駒止の椽
源頼朝が馬を休ませるために使用した椽の木が移植され、浮島中学校に現存します。

24 浮世絵にもなった浮島ヶ原
浮島沼(富士沼)は富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

26 すいどっかどと湧池
魚が棲みやすい川を作ってほしいと浮きウキ子供クラブが浮島地区環境保全推進会に提案し、「すいどっか」という農業用水路を改修してもらいました。川にほび、いわゆる湧池を作って、魚のすみかを作りました。

13 富士山ビューポイント
浮島には富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

10 東海道中膝栗毛
江戸時代の旅物語、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のなかに東海道の宿「沼津原宿」の名物として「うなぎの蒲焼き」が登場します。弥次さん・喜多さんはその匂いを嗅ぎながら「蒲焼きのにおいさかぐも、うなぎとま、こちら二人は、うなぎの蒲焼き」と言って、「うなぎ」と「難儀」をかけて、我慢して通り過ぎていきます。

14 浮島沼
海が山や川からの砂の堆積によって塞がれたために出来た沼。昔、明治初期には「富士八湖」のひとつとして名を連ねたほど。ここに生息する特有の動物植物も多く、その保全が地域の大きな課題です。

25 雄(男)鹿塚・雌(女)鹿塚伝説
浮島には昔、仲のいい夫婦の鹿が棲んでいたそうです。あるとき、烈風のため島が二つに割れて東西に吹き流され、二頭は別々に暮らすようになってしまいました。別れ別れとなって死んでしまったという悲しい物語が残っています。夫婦の鹿に因んで東の塚を雄鹿塚、西の塚を雌鹿塚と呼ぶそうです。

4 大泉寺
源氏ゆかりの寺。源氏一門・阿野全成(頼朝の異母弟・義経の兄)の館跡に建ちます。全成が首を切られたあと、供養のために持ち帰った首を、北条氏が占領する中に入らず、首を入口にあつた松にくくりつけたため「首掛け松」と呼ばれています。

5 大泉寺・伝阿野全成・時元の墓
兵を挙げると敗れ自刃した阿野全成・時元親子の墓があります。お墓は沼津市の指定史跡。

16 昌原寺 七面さん
日蓮宗。開基は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

15 徳源寺 子安さん
徳源寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

6 伝河毛重次の墓
興国寺城主。豊臣秀吉の武将・中村一氏の家臣。興国山「本法寺」を開基。惣左衛門重次使用の鎧と馬の鞍が寺宝となっています。

7 興国寺城跡
小田原北条(後北条)五代の墓を築く城。興国寺城本丸北側(伝天守台下)には穂見神社が建ち、その右には初代城主「北条早雲の陣と最後の城主である天野三郎兵衛康景の碑」があります。

8 穂見神社
穂見神社は江戸時代・安政年間の大震災の被害にあい、1857年に五穀豊穡の御利益がある農家神「高尾山穂見神社」を山梨の高尾山穂見神社から分祠し建立されたものです。東照堂の穂見神社は1846年に山梨の高尾山穂見神社から分祠されたものです。

22 白隠のみち
松蔭寺門前の通りや白隠禅師産湯の井戸などをめぐる白隠のみち。周辺にある数々の名刹や名園「帯美園」など貴重な歴史遺産を結んだ風情ある道です。

18 西念寺 天神さん
西念寺(時宗)。境内に学問の神様をお祀りした天満宮があります。門前に白隠さんの生家があり、幼少の頃よりお母さんといっしょにこの天満宮に日々参拝に訪れました。天満宮大祭は毎年5月。

19 松蔭寺 白隠さん
松蔭寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

9 妙泉寺・増田平四郎の墓
昔から多くの水害に見舞われていた浮島地区。その災害をなくすために尽力した増田平四郎は1836年に浮島沼の水を海に排除する計画を立て、苦勞の末、慶応2年の春には九割がた完成しましたが8月の高波で掘削が崩れ、平四郎は完成を見ずに亡くなりました。のちに昭和第一放水路となりました。

12 浮島湧水群
富士山や愛鷹山の伏流水が至る所で湧き出す浮島沼。多くの湧水は今でも地域住民の生活を支えています。

17 帯美園
帯美園は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

20 長興寺 金比羅さん
長興寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

21 清梵寺 お地藏さん
清梵寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

19 松蔭寺 白隠さん
松蔭寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

11 鎌倉古道
昔、浮島には都につながる鎌倉古道がありました。浮島沼の地形に合わせて曲がっていたまますま作られたが、交通の要衝として多くの旅人に利用されたといえます。現在では長年の整備によって一部を除き消滅してしまいました。

23 駒止の椽
源頼朝が馬を休ませるために使用した椽の木が移植され、浮島中学校に現存します。

24 浮世絵にもなった浮島ヶ原
浮島沼(富士沼)は富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

26 すいどっかどと湧池
魚が棲みやすい川を作ってほしいと浮きウキ子供クラブが浮島地区環境保全推進会に提案し、「すいどっか」という農業用水路を改修してもらいました。川にほび、いわゆる湧池を作って、魚のすみかを作りました。

13 富士山ビューポイント
浮島には富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

10 東海道中膝栗毛
江戸時代の旅物語、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のなかに東海道の宿「沼津原宿」の名物として「うなぎの蒲焼き」が登場します。弥次さん・喜多さんはその匂いを嗅ぎながら「蒲焼きのにおいさかぐも、うなぎとま、こちら二人は、うなぎの蒲焼き」と言って、「うなぎ」と「難儀」をかけて、我慢して通り過ぎていきます。

14 浮島沼
海が山や川からの砂の堆積によって塞がれたために出来た沼。昔、明治初期には「富士八湖」のひとつとして名を連ねたほど。ここに生息する特有の動物植物も多く、その保全が地域の大きな課題です。

25 雄(男)鹿塚・雌(女)鹿塚伝説
浮島には昔、仲のいい夫婦の鹿が棲んでいたそうです。あるとき、烈風のため島が二つに割れて東西に吹き流され、二頭は別々に暮らすようになってしまいました。別れ別れとなって死んでしまったという悲しい物語が残っています。夫婦の鹿に因んで東の塚を雄鹿塚、西の塚を雌鹿塚と呼ぶそうです。

4 大泉寺
源氏ゆかりの寺。源氏一門・阿野全成(頼朝の異母弟・義経の兄)の館跡に建ちます。全成が首を切られたあと、供養のために持ち帰った首を、北条氏が占領する中に入らず、首を入口にあつた松にくくりつけたため「首掛け松」と呼ばれています。

5 大泉寺・伝阿野全成・時元の墓
兵を挙げると敗れ自刃した阿野全成・時元親子の墓があります。お墓は沼津市の指定史跡。

16 昌原寺 七面さん
日蓮宗。開基は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

15 徳源寺 子安さん
徳源寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

6 伝河毛重次の墓
興国寺城主。豊臣秀吉の武将・中村一氏の家臣。興国山「本法寺」を開基。惣左衛門重次使用の鎧と馬の鞍が寺宝となっています。

7 興国寺城跡
小田原北条(後北条)五代の墓を築く城。興国寺城本丸北側(伝天守台下)には穂見神社が建ち、その右には初代城主「北条早雲の陣と最後の城主である天野三郎兵衛康景の碑」があります。

8 穂見神社
穂見神社は江戸時代・安政年間の大震災の被害にあい、1857年に五穀豊穡の御利益がある農家神「高尾山穂見神社」を山梨の高尾山穂見神社から分祠し建立されたものです。東照堂の穂見神社は1846年に山梨の高尾山穂見神社から分祠されたものです。

22 白隠のみち
松蔭寺門前の通りや白隠禅師産湯の井戸などをめぐる白隠のみち。周辺にある数々の名刹や名園「帯美園」など貴重な歴史遺産を結んだ風情ある道です。

18 西念寺 天神さん
西念寺(時宗)。境内に学問の神様をお祀りした天満宮があります。門前に白隠さんの生家があり、幼少の頃よりお母さんといっしょにこの天満宮に日々参拝に訪れました。天満宮大祭は毎年5月。

19 松蔭寺 白隠さん
松蔭寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

9 妙泉寺・増田平四郎の墓
昔から多くの水害に見舞われていた浮島地区。その災害をなくすために尽力した増田平四郎は1836年に浮島沼の水を海に排除する計画を立て、苦勞の末、慶応2年の春には九割がた完成しましたが8月の高波で掘削が崩れ、平四郎は完成を見ずに亡くなりました。のちに昭和第一放水路となりました。

12 浮島湧水群
富士山や愛鷹山の伏流水が至る所で湧き出す浮島沼。多くの湧水は今でも地域住民の生活を支えています。

17 帯美園
帯美園は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

20 長興寺 金比羅さん
長興寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

21 清梵寺 お地藏さん
清梵寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

19 松蔭寺 白隠さん
松蔭寺は徳川家康の御室・お万の方。白隠さんは昌原寺で地獄の話を聞き、のちの出家の動機となりました。身延山久遠寺の裏鬼門を守る守護神七面大明神(七面天女)を祀る祭典は毎年5月。

11 鎌倉古道
昔、浮島には都につながる鎌倉古道がありました。浮島沼の地形に合わせて曲がっていたまますま作られたが、交通の要衝として多くの旅人に利用されたといえます。現在では長年の整備によって一部を除き消滅してしまいました。

23 駒止の椽
源頼朝が馬を休ませるために使用した椽の木が移植され、浮島中学校に現存します。

24 浮世絵にもなった浮島ヶ原
浮島沼(富士沼)は富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

26 すいどっかどと湧池
魚が棲みやすい川を作ってほしいと浮きウキ子供クラブが浮島地区環境保全推進会に提案し、「すいどっか」という農業用水路を改修してもらいました。川にほび、いわゆる湧池を作って、魚のすみかを作りました。

13 富士山ビューポイント
浮島には富士山を眺望できる風光明媚な場所として旅人の愛を惹きつけ、芸術家の感性を刺激し続けました。江戸時代の浮世絵師・歌川廣重が美しい風景画を残しています。

10 東海道中膝栗毛
江戸時代の旅物語、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のなかに東海道の宿「沼津原宿」の名物として「うなぎの蒲焼き」が登場します。弥次さん・喜多さんはその匂いを嗅ぎながら「蒲焼きのにおいさかぐも、うなぎとま、こちら二人は、うなぎの蒲焼き」と言って、「うなぎ」と「難儀」をかけて